

平成29年度第4回 青年の家跡地等整備推進会議 会議録

日時：平成29年11月13日（月）
 午後1時30分～午後3時20分
 場所：富士見市役所1階全員協議会室

出欠状況

座長					
新井(幸)	吉川	吉野	新井(利)	千種	斉木
○	欠	○	○	○	○
佐藤	青木	大塚	水口	斉藤	岩村
欠	○	代) 上田	○	○	○
事務局	政策企画課（課長・副課長・担当）、協働推進課長、まちづくり推進課副課長、南畑公民館長、(株)オリエンタルコンサルタンツ				

内 容
<p>1 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鯉沼課長
<p>2 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島田部長 ・新井（幸）座長
<p>3 意見交換事項（※進行は座長）</p> <p>(1) 整備内容案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1～4に基づき、事務局より説明 <p>○質疑</p> <p>参加者：地域全体の活力向上の中に道路整備は含まれているのか。船渡橋～びん沼荘、瓶沼橋～砂塚橋の間は地域で利用される道路であり、認定道路として違法駐車抑制を図ってほしい。併せて、認定道路を循環バスが南北に運行するなどして南畑地域の交通の充実を図ってもらえるとありがたい。</p> <p>事務局：地域公共交通については市全体での検討が必要であり、この会議のみでは解決できないため、ご意見として承り、今後検討していきたい。</p> <p>参加者：びん沼川は、旧荒川の流れを残す歴史的に価値のある場所であり、貴重な景観や地勢地形、水辺が残されている。日本では水の上から陸地を見るという視点がなくなっているが、その視点が案にどのように反映されているのか。</p>

びん沼川周辺の田んぼや家屋、富士山が見える景観を維持することは観光的価値に繋がると思う。活性化のための公園活用や施設の話が進んでいるが、もう少し長いスパンでの検討はできないか。例えばバリ島は、表通りではなく森や田園風景へ客を誘導し、人工物を見せないようにしている。本整備でも人工物はなるべく自然公園内から隠し、鉄・プラスチック・ガラス類を見せない設計ができないか。水辺から見た風景、葦原、蛇行した河川は大事だと考えている。デッキテラス・施設は必要だが、自然・景観にマッチさせメンテナンスフリーにし、自然を残した方が後々の観光的価値も高くなると思う。都市中にあるオープンカフェ等をモデルにすると、景観豊かな富士見市ではかえって価値を下げてしまうのではないか。なるべく自然のままで大勢の人から喜ばれる活用の仕方を考えなくてはならないと思う。どこにでもあるデッキやバーベキューなどの寄せ集めのアイデアではなく、ここにしかない自然公園にしていくべき。小金井では昭和30年代の水辺風景を戻すという哲学・コンセプトの中で取り組んでいる。地域を活性化したい思いと、長期間での観光価値を高める方法のすり合わせができないか。どこにでもある都市公園ではなくこの土地のユニークさを活かすべき。

参加者：前回のスケジュール表では、第4回で概算工事費や管理運営について説明がされることになっていたが、今日は第3回と第4回の中間の位置づけで、概算工事費などは第5回に、第6回が整備案説明資料になるのか。

事務局：今年度は跡地一帯の活用について一定の大きな方向性を示すことが目標であり、来年度以降基本設計などで詳細を決定するため、工事内容などはもう少し時間をいただく。先ほどご指摘のあった景観へのマッチや自然維持・活用の視点は当然踏まえて考えていく。

参加者：何回の会議で結論を出すのかも必要。いつまでに最終的なものがでてくるのか。

事務局：今年度中で一定の結論・方向性を出し、それに沿って来年度以降市や県で協議をしながら詳細をつめていく。

座長：審議会のようにこの会議の中で結論づけるわけではなく、この場では多くの意見を出してもらおう。どこまで意見が反映されるのかが分からないが、最後は行政での判断になる。

参加者：管理運営、採算性、地域還元性、賑わい創出、集客性などがどう保たれるのかが来年度に持ち越されているならいい。市長も賑わい創出や地域活性化をあげており、地域還元性などが市に任せられればいい。

参加者：何を造るにしてもキーワード・コンセプトが必要。デッキを造るにしても田園・水辺空間に近いものや葦原の造作など、自然公園という名前である以上、自然環境に配慮したものを造るべき。また、次年度以降に実施される管理運営手法の検討段階で広く市民や団体が加わる機会を設ければ、次のソフト事業にもつながっていく。市民を巻き込み盛り上げていくことも必要。

参加者：この地域をどうするのかについては、十人十色の意見があるため、守るのか、攻めるのか迷うところがある。行政はイニシャルコストと維持管理も考えなければいけない。これまで頂いた意見を受けて市で作成した案が、皆さんが思っていたものと合っていたのかの検証も必要。この会議で全てを決めるわけではなく、皆さんから伺ったご意見が反映できるかを検討し、会議でフィードバックさせてもらっている。本日の意見もまた市で形にしお返ししたい。

参加者：この場では、計画をまとめるのでは無く、なるべく意見を出した方が良いということか。

座長：そのとおり。

参加者：市としては、出来ることと出来ないことの分別をして、出来ないのであれば何故できないのかを説明していきたい。

座長：不可能なものは不可能と説明しないと、次から次へと意見が出てしまう。

参加者：これまで示した整備内容については、資料1の下段で整理させてもらっている。今後も頂いたご意見を市で精査していきたい。

参加者：自然よりの考えと都市公園の充実のどちらを優先し、どちらで人を呼び込むのか。それは今年度決めなければいけないのではないか。

参加者：折衷的な考え方も必要だと思う。

参加者：建物を造るのなら、より自然に配慮して造る等の考え方が必要。

参加者：基本方針を定め、それに沿って整備案を考えてきた。市としては、どちらを優先するかではなく、バランス感覚を大事に考えていきたい。法的整理も精査しつつバランス良く検討していきたい。

(2) 関連する事業について

- ・資料3に基づき、事務局より説明

○質疑

参加者：野川公園や武蔵野の森公園での事例を紹介すると、森のようちえん、プレーパーク（ひみつ基地づくり）、スポーツ、野鳥・植物観察、田んぼづくり、写真撮影、池整備などがある。市外も含め市民や団体など様々な活動の参加希望者が出てくると、対応やルール作りが必要。ハード整備で終わりではなく、商業的な活動だけでなく、市民の活動の場として賑わいが生まれる可能性があると思う。維持管理については、年数回都が業者に依頼して草刈りをしているが、市民団体もゴミ拾いをボランティアでやっている。

野川公園の周辺は市街地であり、元田んぼの遊水地や植林のための公園等として都が整備した。自然観察の事務所などもある。

座長：跡地一帯は市街化調整区域で既に自然があり、野川公園とは違う。地域の活性化を考えると、自然だけを相手にしてはいけないと考える人もいる。また人口も減少している中で、どの程度活動する住民がいるか疑問が残る。地域として良い施設にはならない場合も考えられる。

参加者：やりながら考えていくことだと思う。野川では5年毎に計画を見直しており、北多摩南部建設事務所が主催する協議会で検討している。小金井市自体は費用をかけておらず、実際は都と市民が取り組んでいるのが現状。

参加者：この場所に応じた魅力あるものを整備していく中で、県としては河川施設整備を実施する。基本的にデッキテラスと葦原水辺の整備を行う。今日の話を読まえると、自然の良さを残しつつ整備出来れば良いと思う。現時点で総事業費の話はできないため、まずはデッキテラスの整備を最優先とし、事業費に余裕があれば水辺整備を行う等、優先順位を踏まえながら予算の範囲内で整備していくことを考えている。

参加者：デッキについて、コンセプトを踏まえた材質の整理はできる。使われ方によっても変わるが、より自然な形なのか人工的なものなのかの選択肢はあるし、人工物を見えないような形での整備となると、高水敷を広げるなどの考え方もあり得る。素材については、メンテナンスや自然なものなど考える時間はまだある。また、水辺整備について、図では浮島と陸が分離されているが、つなぐ形などメンテナンスを考えた構造を付け加えると思う。

参加者：水辺・田園風景は考えないといけないが、人工物を切り離して考えるのは難しく、うまく住み分けが出来ればよいと思う。駐車場は改善してほしいと思う。桜・富士山などあるが、難しいところである。

参加者：デッキテラスは洪水時水没するため、擬木を使用するなどメンテナンスを考慮した工夫をしてほしい。水辺整備は、全体を掘ると膨大な費用になるとのことだったが、川のような流れをつくる掘削はできるのか。

参加者：デッキテラスや水辺整備は幅、規模や材質によって金額は変わる。跡地との一体性創出や水辺が見えることを踏まえ、複数案を検討していく中で、決めていきたい。

座長：陸と浮島を分離することで獣の被害を抑制できるのではないか。自然を守りたい気持ちは分かるが、それによって近隣に被害が発生しているのが現実問題。

参加者：近隣の住民の方にこの場所が嫌われるのが一番怖い。町会内でも、人工物があり賑わいに繋がることへの期待がある。自然公園の中に賑わいをつくることは賛成。自然だけでいいのであれば現状のままで良く利用者も多くない。行政として、跡地活用と川の再生プロジェクトが一緒になり地域に誇れる場所になればいいと議論している。デッキテラスと水辺整備の優先順位の話があったが、全てを総合的にバランスを考えて整備してほしい。

参加者：地域の活性化をどのような視点で使うのか。どのように価値をつくり見つけていくのか。細かな設計に入れば調整は必要になると思う。

(3) 次回会議の日程について

- ・平成30年2月5日(月) 15時00分～、場所は後日連絡。

4 閉会

- ・鯉沼課長

- ・旧青年の家の解体工事について連絡。

工事は県が施工し、樹木や杭等を撤去し今年度中に更地になる。